

別図第四号の八の八の三 搬送波の変調波スペクトルの許容範囲(第37条の27の11の3第3号関係)

搬送波の周波数からの差	平均電力Pからの減衰量	規定の種類
$\pm(3 \times 13 / 14 \times B / 5.55 + 0.25 / 126)$ MHz	$-10 \log(5550 \times 8000 / 8192 / 10 \times B / 5.55)$ dB / 10kHz	上限
$\pm(3 \times 13 / 14 \times B / 5.55 + 0.25 / 126 + 1 / 14)$ MHz	$-(20 + 10 \log(5550 \times 8000 / 8192 / 10 \times B / 5.55))$ dB / 10kHz	上限
$\pm(3 \times 13 / 14 \times B / 5.55 + 0.25 / 126 + 3 / 14)$ MHz	$-(27 + 10 \log(5550 \times 8000 / 8192 / 10 \times B / 5.55))$ dB / 10kHz	上限
$\pm(3 \times 13 / 14 \times B / 5.55 + 0.25 / 126 + 22 / 14)$ MHz	$-(50 + 10 \log(5550 \times 8000 / 8192 / 10 \times B / 5.55))$ dB / 10kHz*	上限

\* 空中線電力が $0.025 \times B / 5.55$ Wを超え $2.5 \times B / 5.55$ W以下の無線設備にあつては $-(73.4 + 10 \log P)$  dB / 10kHz、空中線電力が $0.025 \times B / 5.55$ W以下の無線設備にあつては $-57.4$  dB / 10kHzとする。

注1 複数波同時増幅を行う無線設備の隣接チャンネル間については、上表にかかわらず、平均電力Pからの減衰量 $-10 \log(5550 \times 8000 / 8192 / 10 \times B / 5.55)$  dB / 10kHzを上限とすることができる。

2 Bは、デジタル放送の標準方式第35条第1項の周波数帯幅(単位MHz)とする。

3 搬送波の変調波スペクトルの許容値の規定範囲は、搬送波の周波数を中心として $\pm 2.5 \times B$  MHzとする。

4 上表にかかわらず、202.5MHzの周波数における空中線電力Pの上限は、以下に示すとおりとする。

空中線電力	202.5MHzにおける空中線電力の上限
$P > 1,000 / 6$ W / MHz	$-62.4$ dBW / 10kHz
$1,000 / 6 \geq P > 100 / 6$ W / MHz	$10 \log(P) - 20 - 65$ dBW / 10kHz
$100 / 6 \geq P$ W / MHz	$-72.4$ dBW / 10kHz